



～姉妹都市交流の巻～

姉妹都市青年交流会議

「交流拠点都市金沢と世界をつなぐ 若者プロジェクト」

金沢市市長公室国際交流課

金沢市では、クリアによる「地域国際化施策支援事業」の助成事業として、2013年8月28日から3泊4日の日程で、「姉妹都市青年交流会議」を開催しました。近郊の高等教育機関などで学ぶ大学生20人とオーストリア、アゼルバイジャン、中国、フランス、韓国、ロシア、タイの姉妹都市などからの7か国の留学生17人、計37人の参加を得て、共通するテーマ「金沢を知る、観る、創る、そしてつなぐ」について意見交換・発表や文化体験などを行いました。

背景となった金沢市の特徴

事業実施の背景には、金沢市が2010年4月に「学生のまち推進条例」を施行したこと、そして2015年春の新幹線開業を控え、人・モノ・情報の交流拠点となることを目指して、本年3月に新たな都市像となる「世界の『交流拠点都市金沢』をめざして」を策定したことがあります。

また、本市は、昨年度から姉妹都市などからの留学生の有志に「金沢姉妹都市留学生交流員」として委嘱し、自身のSNSで自主的に金沢市について発信してもらうとともに、青少年姉妹都市派遣事業の参加経験者の有志に、国際交流を支援する「交流サポーター」として登録してもらっています。さらに市の近郊には、高等教育機関が多数存在し、多くの日本人学生や1,100人を超える留学生が学んでいます。加えて、韓国、フランス、中国、アメリカ、ベ

ルギーからの5人の国際交流員が在籍するなど、多様な人材の宝庫となっています。

金沢は約420年の間戦災がなく、歴史と伝統文化が残されており、種々の文化体験や職人との交流が可能です。事業の会場として、金澤町家を改修した「金沢学生のまち市民交流館」という本市ならではのまちなかに設置された施設を使えます。

本市には、海外7つの姉妹都市、1つの友好交流都市の提携関係やユネスコ創造都市ネットワークの取り組みなど、1対1にとどまらないマルチな交流を可能とする土壌があります。このような地域の特徴を生かして、本事業を試みたものです。

特筆すべき合宿の効果

事業の主たる目的は「国際交流に関心のある大学生」と「日本が好き・日本語ができる留学生」が、「合宿での共同生活」を通じて相互の関係を深めることです。具体的には、交流により①金沢市や日本の伝統・文化に対する理解を深めてもらうこと、②金沢市および日本の魅力・現在の様子を発信してもらうこと、③お互いの文化理解を通じた若い世代の育成を図ること、です。そのための活動単位として、日本人と留学生の混合で約8人ずつ、5グループに分かれ、各グループには1人の国際交流員を配置し、助言者の役割を果たしてもらいました。

また、事業全体に共通するテーマ『金沢を知る、観る、創る、そしてつなぐ』についてグループごと

日程

日付	時間	内容
8/28 (水)	10:30	開会式
	10:50	オリエンテーション(自己紹介・グループ分け)
	13:20	文化体験(職人講座:茶道・日本庭園)
	15:30	グループ活動
	19:00	夕食
	20:50	自由時間(発表研究・情報発信等)
8/29 (木)	8:00	朝食
	10:00	終日グループ活動(含:ファシリテーター指導)
	19:00	夕食
	20:50	自由時間(発表研究・情報発信等)
8/30 (金)	8:00	朝食
	10:00	リハーサル(含:ファシリテーター指導)
	14:00	全体会議
	18:00	交流夕食会
	19:40	施策紹介(市内ライトアップ見学)
	21:50	自由時間(情報発信等)
8/31 (土)	8:00	朝食
	10:00	文化体験(鈴木大拙館見学・兼六園見学)
	13:30	修了式(アンケート、感想交換、修了証交付)

に検討し、その成果は「全体会議」で発表しました。ファシリテーターとして、2013年度「金沢学生のまち推進会議」の委員である金沢大学の八重澤美知子教授、および同学の岸田由美准教授にお引き受けいただき、以下の4つの課題を定めてもらいました。

No.	課題内容
1	若者・外国人におススメの金沢散策 ～私が見つけた文化・歴史スポット～
2	金沢の暮らしで見つけたステキ・ハテナ ～生活スタイル、食、習俗等～
3	「金沢人」ってどんな人？ ～ことば、気質等～
4	金沢にもっと人が集まりやすくするには？ ～施設、交通事情、インターフェイス（情報発信の手段と方法）、私たち学生にできること～

各グループは、4つの課題の中から1つを選択し、ファシリテーターの助言を適宜受けつつ、自由に発表の準備を行いました。発表までの時間が1日半と



金沢学生のまち市民交流館でのグループ活動

限られていたことから、準備作業は昼夜兼行となりましたが、各グループは聴きに来られた市民の方々の前で、素晴らしい発表を行うことができました。

文化体験は、金沢市が設置する金沢職人大学校で、職人の方々に技術を教授する熟練の職人の方を講師に招き、茶道体験と日本庭園の見学を同時に行い、両者の密接な関連性を学ぶ講座、金沢市出身で禅を世界に知らしめた鈴木大拙博士にまつわる鈴木大拙館の見学、さらに、地元の景勝地の再発見として専門「ガイド」の解説付きで、普段とは違う兼六園の雰囲気を感じてもらいました。また、金沢市の進めている夜間景観形成施策を紹介するため、市内のライトアップ見学も行いました。

特筆すべきは合宿の効果です。参加者間の距離は急速に近くなっていきました。茶道体験（於：長町研修塾）



なお、参加者の行動制限はほとんど設けず、朝8時の朝食、夜7時の夕食の際に宿舎に集合することと、未成年に配慮し食事の飲酒を原則禁止とした以外はすべて自主性に任せています。

SNSでの情報発信は1日30回以上

活動の中で、留学生が金沢のまちや日本文化についてよく知っていることが分かる場面が多々あり、

そのことが日本人学生の刺激になったようでした。また、プログラムを通じて、金沢のまちや日本文化についてさらに深く理解できたこと、国際人として自国の文化に関する教養の重要性を再認識したとの感想が多く寄せられています。

発信件数については、各自のSNSで日本語はもちろん、英語、中国語、韓国語、ロシア語など、150回以上発信したとの報告があり、1日あたりでは30回以上になっています。

事業の終了に際しては、参加者同士が別れを惜しみ、多数の参加者が目に涙を浮かべるほどに関係が深まっていました。日本人、留学生を問わず、重層的な交流により種々の文化を学ぶことができ、勉強になったとの回答も目立っています。

以上のことは、最終日に設けた修了式での感想交換の様子およびアンケートから得られたもので、先の項目に記載した①～③に関して、一定の成果があったと考えています。

展望

誌面の都合で全体会議の詳細は省きますが、金沢のまちづくりに資する多くのアイデアと具体的な提案を含む興味深い内容で、聴講された市民の方々から高い評価を受けました。アンケートの「この事業の参加者とまた活動をしたいか？」との設問に対しては、ほぼ全員が「したい」と回答しており、メンバー間にはすでに絆が生じています。参加者のSNSグループも作成すると聞いています。

そこで、金沢市としては、この事業の参加者自身が、自らの提案を具現化してほしいと考えています。そのために、メンバーが自主的な活動をできるように参加者同士、さらにはその関係者との関係を今後も大切にしてもらいたいと考えています。もちろん、実現には紆余曲折があるとは思いますが、一つひとつの課題を丁寧に取り扱うことを通じて、本市は、将来を担う若い世代の育成につなげていきたいと考えています。

この事業はクレアの助成事業に採用されたため実施が実現したものです。また、運営には国際交流員が重要な役割を果たしています。新たな国際交流の展開向けクレアの制度の活用を検討されることを提案し、本稿の結びとします。